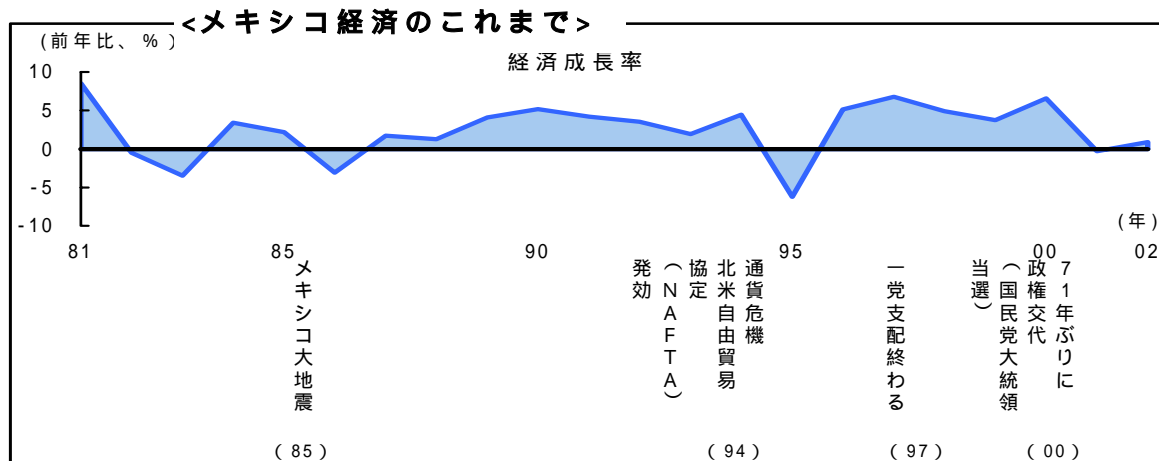


<2002年>

人口	9,748万人(2000年2月時点) (日本の約3/4)	財政会計年度 為替制度 通貨	1月~12月 変動相場制 ペソ 1米ドル=9.66ペソ
一人当たりGDP	6,537ドル	面積	196.4万km <sup>2</sup> (日本の約5倍)
産業構造(GDP構成比)	1次産業 5.4% 2次産業 26.7% 3次産業 67.9%		



メキシコの主要経済指標

		90年代 (91~00年)	2001年	2002年	2003年			
					政府	OECD	IMF	民間機関
実質GDP	前年比%	3.5	0.3	0.9	3.0	2.5	2.3	実質GDP
鉱工業生産	同上	4.1	3.5	0.0	-	-	-	平均 3.0
消費者物価	同上	17.6	6.4	5.0	3.0	4.4	4.3	最大 3.8
失業率	%	3.6	2.4	2.7	-	2.7	-	最小 2.4
経常収支	億米ドル	152	180	141	180.4	152	-	(23社)
(GDP比)	%	( 3.6)	( 2.9)	( 2.2)	( 2.4)	( 2.5)	-	
財政収支	億米ドル	16.0	45.2	39.0	32.5	-	-	
(GDP比、年度)	%	( 0.4)	( 0.7)	( 0.6)	( 0.5)	-	-	
政府債務残高	億米ドル	445	817	940	-	-	-	
(GDP比、年度末)	%	( 10.6)	( 13.1)	( 14.7)	-	-	-	

(出所) メキシコ銀行、メキシコ地理情報統計院、IMF "International Financial Statistics".

見通しの政府はメキシコ財務省 "Economic Policy Guidelines for 2003" (2002年11月) 等、OECDは "Economic Outlook" (2003年4月)、IMFは "World Economic Outlook" (2003年4月)。

(注) 1. 財政収支は、一般政府。2002年は、農業開発銀行 (Banrural) 解散の影響を除いたもの。

2. 政府見通しの消費者物価は、12月の前年同月比。

## <2002~2003年の経済>

2002年は、経済成長率が0.9%となり、2001年のマイナス成長を脱したものの、その回復は弱いものとなった。対米輸出や個人消費の増加によって2002年前半に景気は持ち直したものの、その後アメリカ経済の回復力の弱さ等を背景に伸びが鈍化した。

2003年は、アメリカの景気回復等を要因として、3%程度の緩やかな成長が見込まれる。(政府見通し3.0%、民間機関23社の平均3.0% (2003年4月時点))。また、金融システムの強化等の構造改革が進展した場合には、さらに高い成長も可能と見込まれる。

一方、下方リスクとしては、アメリカ経済回復の遅れ、ペソ安によるインフレ率上昇等が挙げられる。